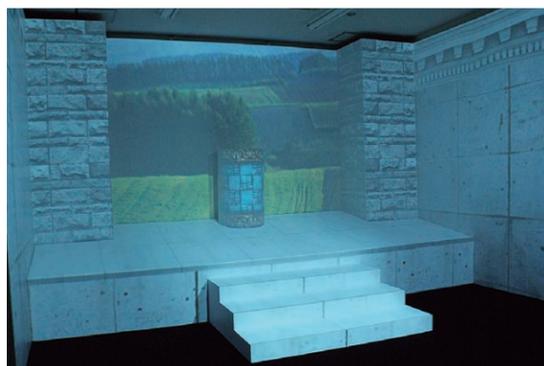
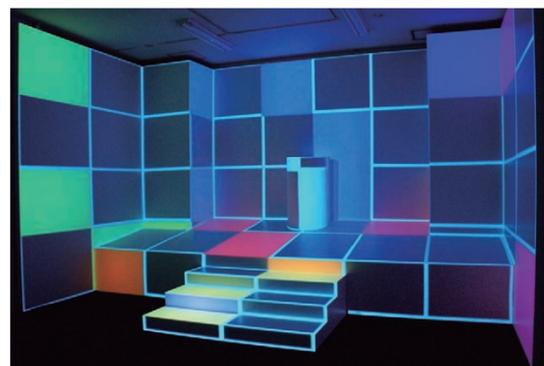


タケナカ内覧会で発見した イチオシ製品

映像・音響・PC関連機器レンタルの株式会社タケナカが8月3日～5日に大阪本社にて「国際イベント総合展」と「イベントJAPAN」の出展製品を中心に内覧会を開催した。来場者数は、3日間で535名と前回の300名を大幅に上回った。出展製品も、今回が初披露となる、超高解像度の大型マルチディスプレイシステム「460UTu-UD」や映像を含めた空間演出が得意な同社ならではのオリジナルソリューション「ビームペインティング」などバラエティ豊かな製品が数多く出展された。



ビームペインティングは、動画・静止画を問わず、色彩や文字による演出、その他に風景や建造物、人などさまざまな物を空間に演出が可能。



●ビームペインティング

これまでの映像演出技術を覆す、まったく新しいマルチプロジェクションが可能なタケナカオリジナルソリューションである。

コンサートや演劇など様々なステージイベントは当然ながら、展示会などの映像を駆使したイベントにおいて、動画・静止画を問わずデジタルイメージをリアルに立体造形物に映し出すことが可能。また高性能な補助エンジンで曲面や球体といった立体物にも投写できる。また、複数のソースをサーバー管理することで、様々なシーンを即座に再現できる。

映像機器、照明機器も一元管理が可能で、空間演出をトータルにコントロール。これによりレイアウト、カラーチェンジ、サイズを自由自在にアレンジができる。

また同社の映像制作ブランド「D.i.g.i.fix」によりオリジナルコンテンツの制作も可能。映像を知り尽くした同社ならではのトータルコーディネイトで、インパクトのある空間演出を可能にした。

●460UTn-UD Samsung

液晶ディスプレイで世界最薄となる6.7mmベゼル幅を実現した、限りなくシームレスに近いマルチディスプレイシステム。

46型液晶ディスプレイにWindowsコントローラを一体内蔵、ギガビットイーサネットのネットワーク型マルチキャスト方式により、特殊なグラフィックボードやシステムを必要とせず、高解像度大型マルチディスプレイシステムを構築できる。

また、SamsungUDソフトウェアにより、コントロールPCやセンター用ノートPC・ビデオカメラから、複数の入力信号（動画・静止画・ストリーミングビデオ等）をビデオウォール上に自由に配置、マウス操作によるズーム機能や回転、移動が自由なインタラクティブ環境を提供する。

その他に、最大250台の同製品の連結により、10億画素（解像度40,784ドット×26,800ドット）までの超高解像度表示に対応できる。



●ムービングモニター

両脇に縦置き65インチのハイビジョン液晶ディスプレイを2台配置したタケナカオリジナルムービングモニターシステム。ディスプレイが左右にスライドしてダイナミックな映像を表現、ディスプレイが左右に開くと、奥にはさらに大型のディスプレイが出現し、見る人に圧倒的なインパクトと視覚効果を与える。

同製品はハイビジョン対応の送出機を使用することで、近くで見てもキレイなハイビジョン映像でさまざまな演出が可能。また、左右のディスプレイをそれぞれ独立した動きにプログラミングすることも可能。一定の速さはもちろん、ムービングの途中で速さが変わる可変設定も実現した。また、照明効果の同時制御を行うことでトータルな演出を進行に合わせて行うことができる。ショッピングモールなどの商業施設や展示会のサイネージインフォメーションツールとして活用できる。もちろん常設としてだけでなく、必要ときにレンタル対応もできるので幅広く活用できる。



大阪市港区に本社を構える株式会社タケナカ。同社は1958年に、映写機の販売を行なう企業として誕生。その後、年々業容を拡大させ、現在では展示会や学会またイベントの映像・音響空間の提案、AVシステムの構築、さらには各種展示会・イベントなどの企画

・制作などをトータルに手がける総勢72名の企業へと成長している。

2004年1月には東京営業所を江東区に開設。順調に首都圏内でシェアを獲得し、業務拡大。2007年8月には東京営業所を東京支社と組織変更し、拠点も江東区潮見より

古石場に移転した。

同社は、多くの同業者が存在する東京でクライアント獲得のため、他社との差別化を武器に展開している。その差別化の中には、ハードの種類や物量は当然だが、さまざまなジャンルのエキスパートを一つに集め、細かな取付金具から、映像を含めた空間演出など、常に新しい“モノづくり”を提案している。これからのタケナカの売りは、アイデア・制作能力、そして全体をまとめるプロデュース力のある提案であり、常にクライアント目線で、映像に特化した提案だけではなく、企画から施工までを含むトータルプロデュースである。自らが提案内容に介入することで、“勝てる確率が上がる”“クライアントが必ず納得する”“新しい情報が常に入手できる”そんな企業を目指している。